

浅間山の火山活動解説資料

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

気象庁機動調査班（JMA-MOT）が東京大学地震研究所、産業技術総合研究所と共同で実施した降灰分布調査によると、2日に発生した小規模噴火に伴って噴出した火山灰は、軽井沢町では4 km程度の幅をもって分布していることがわかりました。

また、東京大学地震研究所によると、火山灰に今回の噴火で噴出されたマグマ物質と思われる粒子が少量含まれていることがわかりました。

山頂火口から4 kmの範囲では、噴火に伴う大きな噴石（風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きさのもの）の飛散等に警戒が必要です。

○ 概況

・降灰分布状況（図1、2）

2月2日1時51分頃に発生した小規模噴火に伴った降灰の調査を、東京大学地震研究所、産業技術総合研究所と共同で軽井沢町浅間山麓および軽井沢町一帯にて実施しました。火山灰は主に千ヶ滝地区から軽井沢駅方面にかけて堆積していることから、この方向が降下火山灰の分布の主軸と推定されます。また、軽井沢町では4 km程度の幅をもって降灰が分布していることがわかりました。

・火山灰の分析（図3）

東京大学地震研究所の分析によると、この噴火に伴った降灰を分析したところ、火山灰の中に今回の噴火で噴出されたマグマ物質と思われる粒子が少量含まれていることがわかりました。このことは、マグマが火口直下に上昇してきていることを示していると考えられ、今後も中規模の噴火が発生する可能性があります。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平20業使、第385号）。

この資料は気象庁のほか、東京大学地震研究所、独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

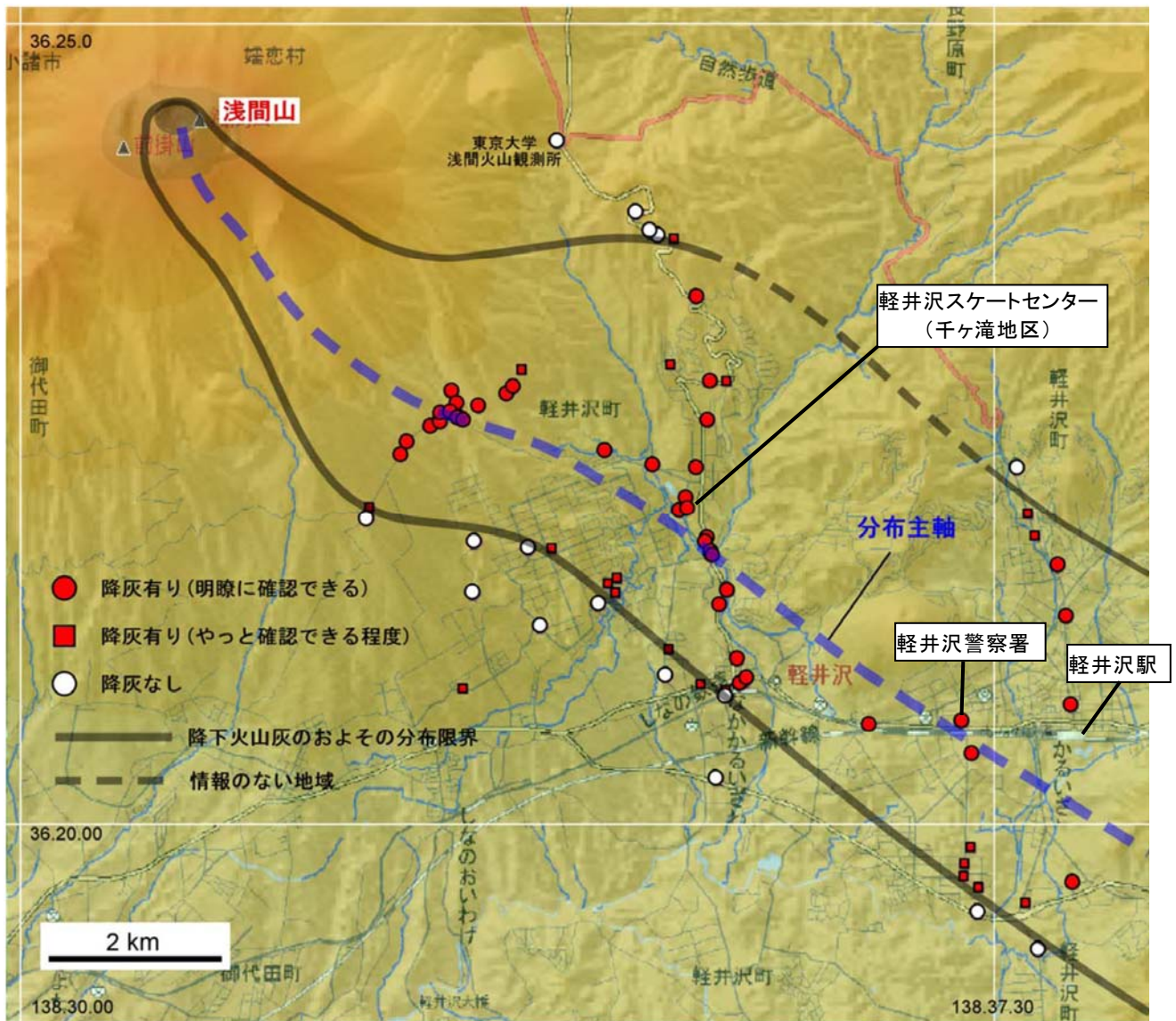


図1 降灰調査実施地点及び降灰分布

（東京大学地震研究所、産業技術総合研究所、気象庁の合同調査による）

※ 火口付近及び山体南斜面での分布については、上空からの撮影画像にもとづいている。

※ 風の影響により、分布主軸の西側よりも東側の方が広がっている。

※ 調査期間：2月2日午前～2月3日午前



軽井沢スケートセンター



軽井沢警察署



山頂火口から南東斜面にかけての降灰分布（軽井沢消防署から撮影）

図2 降灰状況

浅間山2009年2月2日噴火の火山灰写真

2009年2月3日

採取場所：軽井沢町千ヶ滝温泉入り口信号（2月2日午前3時40分採取）



洗浄後の直径1mm以上の粒子（写真横幅 20 mm）．ほとんどが溶岩破片



洗浄後の直径125μm以下の粒子（写真横幅 2 mm）．
赤丸内：少量含まれる本質物質と思われる粒子

図3 噴出した火山灰の様子（東京大学地震研究所）